

代表派遣会議出席報告（HP掲載用）

日付 平成26年4月18日

執筆者氏名 佐々木晶、中村卓司

（地球惑星科学委員会、COSPAR 分科会委員）

※同一会議に複数の方が派遣されている場合は、派遣者の連名でも結構です。

1 会議概要

1) 名称

（和文） COSPAR 理事会（第81回）、科学諮問委員会（第9回）、
プログラム委員会

（英文） The 81st COSPAR Bureau Meeting、
The 9th Scientific Advisory Committee Meeting、
Program Committee Meeting

2) 会 期 平成26年3月17日～ 19日（3日間）

3) 会議出席者名

佐々木晶（大阪大学）、中村卓司（国立極地研究所）

4) 会議開催地

CNES（フランス宇宙機関）、パリ、フランス

5) 参加状況（参加国数、参加者数、日本人参加者）

（3つの会議を通じて、約15カ国、参加者数40人、日本人参加者2人）

6) 会議内容(HP掲載を有効にするため、まずは概要、要点をお書きください)

・ 日程及び会議の主な議題

COSPAR（宇宙空間研究委員会）の一連の会議が平成26年3月17日から19

日までの間、フランス、パリの CNES（フランス宇宙機関）にて開催され、COSPAR の Bureau member であり日本代表の佐々木（大阪大学）および科学委員会 C 委員長の中村卓司（極地研究所）が出席した。プログラム委員会は、3 月 17 日に開催され、8 月のモスクワ（ロシア）科学総会のプログラム作成を行った。（3 月 20 日に予定されていた 2015 年シンポジウムのプログラム委員会は延期となった）。3 月 18 日には科学諮問会議が行われ、宇宙科学の各分野、各国の宇宙科学の現状の報告が行われた。Bureau meeting（理事会）は 3 月 19 日に開催された。主な議題は、次期 COSPAR 会長候補の所信表明、8 月のモスクワ総会、2016 年イスタンブール総会、COSPAR の賞・メダル、科学諮問委員会報告、財政報告、出版報告、COSPAR 支援シンポジウムである。

- ・ 会議における審議内容・成果

プログラム委員会では、8 月のロシア・モスクワの科学総会のプログラムが確定した。あらかじめ講演数に応じた半日単位の時間の割り振りがされていたが、セッションによっては部屋の規模や実施日の変更のリクエストが認められた。科学諮問委員会では、各分野、各国の宇宙科学の現状報告が行われた。理事会では、2 年前のマイソール総会時で決定された、COSPAR の細則（By Laws）改正に基づき、新会長選挙候補者の所信表明が行われた。COSPAR 総会の現状・改善点についての議論が行われた。会期を（1 日）短くするという提案については、反対意見もあり、結論は出していない。

- ・ 会議において日本が果たした役割

プロジェクトの規模に変更はあったものの、何とか予算を確保して、宇宙科学を継続的に進めていることを強調したことは、宇宙に関わる各国に評価されたと考える。また、様々な計画が国際協力のもと、すすめられていることを説明した。

- ・その他特筆すべき事項（共同声明や新聞等で報道されたもの等）

ロシアによるクリミア併合という、緊張した政治情勢のなか、そこで、COSPAR 会長が、ロシア大統領あてに親書を書き、ロシア宇宙機関からの Zeleni 理事を通じて渡すこととなった。また、佐々木の提案がきっかけとなり、このような情勢でも国際協力を進めることの重要性を強調して、たとえ政治的な意見が異なっているとしても、宇宙科学の振興のために、モスクワ大会への参加を呼びかける記事を掲載することになった。（参考記事）

2. 会議の様相（会議のより詳細な状況、宿題、次のステップ、次回開催等もお書きください）

プログラム委員会は、25 名程度の参加者がおり、それぞれの分野の委員長がすでに提出した各イベントを、開催期間にわたり全てのセッションを振り分けた原案をもとに、プログラム構成を議論した。同じ分野(Commission)でも2-5本のセッションが同時に行われることがあり、議論になった。中村委員は、Commission C の委員長として、事前に整理したプログラムを説明して承認された。佐々木は、オブザーバーとして参加して、Commission B（太陽系天体）セッションのプログラムの確認を行った。直前に開催される、AOGS のプログラムとの調整に考慮した。

科学諮問委員会では、各分野(Commission)、日本を含めたいくつかの国から宇宙科学の現状について報告を受けた。宇宙科学研究所による新たな日本の宇宙科学方針について、（科学諮問委員の西田のかわりに）佐々木が説明を行った。また、宇宙天気(Space Weather)パネル、地球システム科学(Earth system science)ロードマップの報告が行われた。昨年 11 月のタイでの 1st COSPAR シ

シンポジウムの報告が行われた。シンポジウムの内容は高かったものの、参加者数などの関係で、収支は黒字にはならなかったとのことである。

Bureau meeting（理事会）では、本年度の総会参加者（とくに途上国から）へのサポートの結果について照会された。日本を含めて多くの国の機関から、旅費サポートについては支援を受けている。COSPAR 総会の現状・改善点についての議論が行われた。会期を（1日）短くするという提案については、副会長の Wu 氏が科学委員会へのアンケートをもとにまとめた意見の一つであったが、反対意見もあり、結論は出ていない。本年のモスクワ総会 2年前のマイソール総会時で決定された、COSPAR の細則（By Laws）改正に基づき、新会長選挙候補者の所信表明が行われた。候補者は、現会長の Bignami 氏（イタリア）と現科学諮問委員会委員長 Fisk 氏（アメリカ）である。これは、4月から5月までの間に、各国代表者と科学諮問委員会委員長の投票で決められる。それとともに、Nomination Committee から副会長、理事の候補者リストが提示された、これは8月の各国代表社会議での選挙で決定される。

次回開催予定。プログラム委員会、科学諮問委員会は、2015年3月にパリで、Bureau Meeting（理事会）は、8月のロシア・モスクワの COSPAR 科学総会の期間中の8月9日に開催予定である。また、2016年のイスタンブール（トルコ）総会の次に、2018年の総会は、アメリカで行われる可能性がある。

（参考） COSPAR モスクワ大会HPに掲載された記事

<https://www.cospar-assembly.org/>

Note Concerning the Scientific Assembly in Moscow

COSPAR is an interdisciplinary body of the International Council for

Science (ICSU). As such the Committee is required to conduct all its activities in accordance with the ICSU Principle of Universality of Science which states “the free and responsible practice of science is fundamental to scientific advancement and human and environmental well-being. Such practice, in all its aspects, requires freedom of movement, association, expression and communication for scientists, as well as equitable access to data, information, and other resources for research.” Hence, the COSPAR charter states that the Committee’s objectives are to promote on an international level scientific research in space, with emphasis on the exchange of results, information and opinions, and to provide a forum, open to all scientists, for the discussion of problems that may affect scientific space research.

Indeed, COSPAR was founded almost 60 years ago during a period of great international tension in order to bridge the scientific gulf between researchers in the field of space research. By strictly adhering to ICSU principles and its apolitical character, COSPAR has successfully promoted international collaboration in space research for many years irrespective of any political considerations.

In accordance with ICSU regulations and its by-laws, COSPAR encourages:

– all concerned space scientists to contribute, according to their personal convictions, to the promotion of international cooperation and the

Universality of Science by participating in the 40th Scientific Assembly,
– calls on the relevant authorities in all countries, following ICSU policy,
to facilitate the visa process for bona fide scientists to enable them to
attend this and other scientific meetings, and to refrain from taking
measures that create obstacles to the holding of international scientific
meetings.